

ちほの  
おしゃべりタイム



## もう1つのオリンピック



オフィスPrima 代表  
フリーアナウンサー  
ビジネスマナー講師

とおる ちほ  
**透 千保**

東海地方の各放送局(岐阜放送/ぎふチャン、FM Gifu、東海ラジオ、メーテレなど)で数多くの番組やニュースを担当。司会、ナレーションの他、名鉄電車、名古屋市営地下鉄など、公共交通機関のアナウンス放送に携わる。一方、企業・大学において、ビジネスマナー、電話応対などの研修講師を務め、人材育成に取り組んでいる。

ものづくりの技を競う「技能五輪全国大会」をご存知でしょうか。次世代を担う若者が技能の日本一を競うもので、毎年開催されています。大会は、「旋盤」「電気溶接」「メカトロニクス」「左官」「建築大工」「美容」「フラワー装飾」など幅広い41職種で構成されており、企業に所属する若手社員や、高校・大学・専門学校の生徒たちが、それぞれの分野に挑みます。取材をきっかけに、このような技能のオリンピックがあることを知りました。

昨年の大会は無観客で開催されましたが、全国から40職種944名の選手が参加。岐阜県からは8職種18名の選手のうち3名が入賞し、「家具」職種においては、浦谷大司さんが金メダルという快挙を成し遂げました。浦谷さんは高山市にある飛驒産業株式会社に勤務され、ぎふメディアコスモ스에設置されている14面体の本棚も製作されています。まるで秘密基地のような形の本棚は、自分の大切な一冊をみんなでシェアする共読本棚として親しまれています。

競技は職種によって違いますが、限られた時間の中でいかに課題を完成させるかがポイント。「家具」職種では、競技前日に図面が配布され、さらに当日、細部の寸法と仕様変更が与えられた上で、キャビネットを2日間で11時間かけて製作しました。作る対象をイメージし、それをどのように実現するかを構想する能力、出来映えよく仕上げる工作能力など、総合的な高い技術力が求められます。

こちらの会社では、「飛驒職人学舎」を開校し、木工家具職人の養成にも取り組んでいます。寄宿舎で寝食を共にしながら職人の心構えから学ぶ生活が2年間続くことあって、厳しい修行のようにも思えますが、最近は何ものづくりがしたいと全国各地からやって来る若者も多いとか。先輩は後輩の指導にも当たり、飛驒の匠の技を伝えていきます。

人口知能(AI)が発達して人間の知性を超えてしまうことにより、2030年には今ある仕事の約半分がなくなるとも言われています。確かにAIの進歩にはめざましいものがありますが、感性やアイデア、経験に基づく創造力など、人間にしかできない領域があるのも事実です。特に家具のような、手を触れ、体を託して使うものを創り出すためには、生身の身体を持った人間の感性と繊細な技が、とても大事なように思います。私たちが心豊かに生活することができるために、技術を磨き上げ製品化するものづくりの伝統は、いつまでも守り続けてほしいと願っています。

今年の技能五輪全国大会は、12月17日～20日まで東京ビッグサイトを中心に開催される予定です。この大会をきっかけに、若者が技能のバトンを受け継ぎ、また、次の世代にそれを繋いでいく姿に大きな声援を送りたいと思います。